

氏名	坂 口 紀 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3 1 2 8 号
学位授与の日付	平成 9 年 6 月 3 0 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	高血圧自然発症ラットにおける脈絡膜血管病変の病理組織学的研究 第 1 報 病変の進行過程について 第 2 報 晩期高血圧自然発症ラットにおける脈絡膜と網膜色素上皮細胞の変化
論文審査委員	教授 増田 游 教授 大江 透 教授 岡田 茂

### 学位論文内容の要旨

12-117週齢の高血圧自然発症ラット (SHR) の脈絡膜および網膜色素上皮細胞の病理変化を、透過電顕で観察した。対照としては、正常血圧のWistar Kyotoラット (WKYラット) の組織を検討した。

SHRにおいては、脈絡膜細動脈および毛細血管の内皮細胞は、初期は活性の亢進像が観察されたが、後には変性所見へ移行した。細動脈の平滑筋細胞は細胞質の部分的な壊死が見られた。高血圧が長期間持続したSHRでは、脈絡膜は硬化性変化が強くなり、網膜色素上皮細胞は基底嵌入が拡大して、細胞質内の空胞が見られ、微絨毛の変形や視細胞外節の貪食の障害像と考えられる所見が観察された。また、WKYラットでは、脈絡膜および網膜色素上皮細胞には、これまでの報告と同様の加齢変化が観察された。

長期間にわたる高血圧により、脈絡膜血管には閉塞性変化がおり、脈絡膜循環障害から網膜外層の変性が引き起こされる過程が観察された。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、12～117週齢の高血圧自然発症ラット (SHR) の脈絡膜および網膜色素上皮細胞の病理変化を、透過型電顕で週齢経時的に観察したものである。

第 1 報では、SHRでは、脈絡膜細動脈および毛細血管の内皮細胞で、初期には活性の亢進像を認め、その後変性所見へと移行した。また細動脈の平滑筋細胞では、部分的に壊死がみられた。更に高血圧が長期に持続すると、脈絡膜に硬化性変化が強くなり、網膜色素上皮細胞では細胞質内に空胞が生じた。また微絨毛の変形や視細胞外節の貪食障害像もみられた。一方、対照として用いたWKYラットの脈絡膜や網膜色素上皮細胞では、対応週齢に従って、加齢変化のみ観察された。第 2 報で更に長期間にわたる高血圧により、脈絡膜血管は閉塞性変化を起こし、脈絡膜循環障害によって網膜外層の変性が引き起こされて行く過程が観察された。

以上、本研究は、高血圧の脈絡膜血管と網膜色素上皮細胞に与える経時変化を透過型電顕でとらえた初めてのものとして、価値ある業績であり、よって本研究者は、博士 (医学) の学位を得る資格があると認めた。